

桜蔭俳話会 四月句会 (第三二四回)

平成二十六年四月二十七日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

5点③猫の恋シングル比率拡大す	明美	痛む齒に堪へ鶯や猫の声	幸
3点①酌み交はす羅漢の像や花吹雪	友子	小径抜けなほうぐいすの谷渡り	弘子
3点 目標に遠き歩数や山笑ふ	弘子	寝ぼけ聞く地震予報や星おぼろ	秀一
3点 血圧の平穩保つ眼借時	秀一	幾年の父の笑顔や山椒汁	ツル子
3点 ペンペン草どこで切らうか立話	弘子	見渡せば視界すべてに水仙花	真壽
3点 パスポート更新迷ふ春深し	ツル子	児等去りて夕日に残る踊子草	才美
2点②パソコンを外せし虚無や花の雨	明美	枕辺の詩集きららか夏初め	守
2点①大仰な指の縋帯蛇いちご	秀一	蟻の列くずす朝の竹ぼうき	弘子
2点①花冷えや麻酔の解けぬ親知らず	ツル子	おもひきり水面に伸びる桜ばな	真壽
2点①山の湯の丸太のまくら花馬酔木	ヤエ子	こんなにも鎌倉山に桜あり	友子
2点 墓守の正しき箒目立夏かな	才美	百歳の母のことばや春炬燵	清子
2点 朝な朝な丹沢連峰遠霞	弘子	春のよひ赤い満月絵のごとく	直子
2点 花菖蒲女ばかりの昼会席	才美	パソコンを閉ぢて連休夏初め	守
1点①久に出で五臓六腑の緑かな	ツル子	車椅子集る桜吹雪かな	秀一
1点 訝しむミルクの鮮度花の闇	明美	さはやかにつつじ咲きしも肌寒し	真壽
1点 十薬や家も晩年根が緩む	幸	薔薇垣の木の眩しかり剪定後	清子
1点 花いかだ雨に打たれて沈み行く	真壽	沈没船友の助けも受けてくれ	直子
1点 盛りなる一重山吹雨のなか	清子	行く春や緩きカーブのハイウェイ	守
1点 うららかや電動で撞く時の鐘	友子	花の夜の繋がらざりしG mail	明美
1点 桜蕊ふる初めての気付きかな	直子	救急のサイレン西へよなぐもり	秀一
1点 手を上げて渡り来る子等緑さす	清子	お花見の明暗別ける雨女	真壽
1点 花満開学校跡地の低鉄棒	ヤエ子	桜蕊髪へ付くまま参りけり	友子
1点 桜散り牡丹桜は誰を待つ	直子	落葉松の芽いとやさし指に触れ	ヤエ子
1点 落椿音に振り向く谷戸の道	幸	(不在投句 古野明美、原田清子)	
1点 あさり採る大和の地図の左端	明美		
1点 春筍の穂先小道へ侵入す	友子		
1点 ふつくらと彩り淡し木の芽山	ヤエ子		
1点 四十雀の規則正しき声のして	清子		
1点 鏡り仕舞ふ骨董市や若葉冷	才美		

「事務局からお知らせ」

○第一一三回通信句会作品募集

春に属する季語を用いた三句。締め切りは五月十日(土)。同封の葉書でお送り下さい。

○五月句会(吟行となります)

・期日 五月二十五日(日)

・場所 鎌倉東慶寺、浄智寺方面

・詳細は、同封の案内をご覧ください。

※

日の暮れて緋牡丹にある重さかな	守
春雨に相合傘がよく似合ふ	直子
列をなし城の桜の忙しなく	ツル子
眠気さす微かな香り芝桜	ヤエ子
若葉して海へ吹き尽くファンファーレ	才美
ぼうたんの疵ひとつなき光りかな	守

○六月句会

・六月二十一日(土)午後一時

・場所 旭区民文化センター(相鉄線二俣川

駅ライブ五階)